

ひすいこたろうと申します。どうぞよろしくお願いします。

今日は『人生で奇跡を起こすたった1つの方法』についてお伝えさせていただこうと思います。よろしくお願いします。

じゃあ僕が“人生で奇跡ってこうやって起こすんだ〜”って、はっきりわかった体験がありまして、それをお話させていただくと、僕は学生の時にコンサートの警備員やっていたんですね。

コンサートの警備員っていうのは、熱狂的なファンを止める役割なんですね。熱狂的なファンがステージに行こうとすると「そー！」って言って、止める役割なんですね。

その日はコンサートが、横浜アリーナかどこかちょっと場所ははっきり覚えていないんですけど、僕の当時はジャニーズの光GENJIだったんですよ、その日のコンサートは。

色々な人の警備をやったんですけど、その日は光GENJIで、終わった時に1人のいかにも東北から出てきたような14、5才位の女の子が、涙顔で僕に訴えかけてきたんですね、終わったあとに。

参っちゃって・・・

「一緒に来た友達とはぐれちゃって、わかんなくなっちゃったんです！」って。

ほんと小さい14、5才くらいの女の子が、涙ながらに僕に訴えかけてきて、それが僕が大学生の時だったんですけど
「わかりました！オレがなんとかします！」って走り出したんですよ。

走り出してる時に気付いたのは、その子はすごく田舎っぽくて、すごく泣いてもう泣き顔だったんですよね。それで、そこで見たらなんとか助けてやろうという思いだったので、それで走って捜していったときに気づいたのは、

“あ、オレその子の名前しか聞いてなくて、服装とか聞き忘れた”

と思ったんですよ。

それで聞き忘れた・・・っと思って、でもオレがあ顔見たら、なんとかオレがもう見つけてやろうと思って、名前しか知らなかったんですけど、走って行って、ワッと何万人が出てくるので、すごい人がいっぱいいるんですけど

「●●さんですよ。」って言ったら

「はい！」って、1人目で当たったことがあるんですよ。
1人目で当たったことがあるんですよ。僕もびっくりしたんですけど、後で。

その時は“オレが見つけてやる”って思っていたので、自分が一番そのあとに“よく1人目で当たったな”とすごくびっくりしたんですよ。
その時はそれでびっくりしただけで終わったんですよ。

不思議なこともあるもんだなーでその時はそれで終わったんですけど、そこからだいぶ経ってこれはもう今年？ いや去年？ の話なんですけど、去年の話にこれは本にも書いてあるんですけど、スズキケンジさんという本を書いている知り合いの結婚式があって出たんですね。

結婚式で僕の隣が僕の出版社さんの担当で、イベントなんかも手伝ってくれている女の子が隣に座っていて、アナウンスが入ったんですね。

「今からアイスクリームを配ります。その中に当たりが、
パカって開けると“ハートマーク”が入っている人が当たりです。」

って言われて、

「60名の中で3名だけ当たります。
その3名はありえないぐらいすばらしいプレゼントを用意しました。」

って言われたんですね。

それで言われた時に、“あ・・・オレ、彼女に出版社さんでお世話になってる

し、当たったら彼女にあげよう”と書いていたんですよ。あげようと思った瞬間にアナウンスが「ありえないぐらいのプレゼントです」って念を押したんですね。

その時スズキさんは、バリ島が好きだから“ありえないぐらいのプレゼントを用意した”っていうから、バリ島旅行のペアチケットとか当たるんじゃないの？”って思ったんですね。“オレは本当にバリ島旅行のペアチケットが当たっても彼女にあげるかな”と思った時に、“あ、あげよう！”と思ったんですよ。

その瞬間に『オレ当たるな！』って思ったんですよ。オレ当たるな—って思って、彼女に「オレ当たるから見てて！」って言ったんですよ。

バリ島旅行が当たってもあげようと思った時に『当たるな』って思ったのは、バリ島旅行をあげるって、めっちゃめっちゃ“ピュア”じゃないですか。気持ちはピュアだったし当たるなって思った理由は、他の人が当たれば、他の人が喜ぶだけなんですよ。でも僕が当たったら僕も喜ぶし、彼女も喜ぶじゃないですか。

だからもし神様がいたら、僕に当てると喜びが2倍ポイントになるわけですよ。特典が2倍になるんですよ。喜び2倍の得点のポイントを神様がもしいるとしたら絶対に見逃すはずがないなと思って、当たると思ったんですよ。

そのあとアイスクリームが配られて、60名くらいの中で3つ当たるわけですけど「当たるから見ていて。当たったらあげるからね。」って言ったんですよ。パカッって開けた時に

「え———!!!ひすいさん当たってる———☆」

ってなって、その時にやっぱり神様って、喜びを増やそうっていう奴を絶対見逃さないんだって思ったんですよ。

そう思った時にちょうどね、クイズ・ミリオネアって番組をやっていて、それで新庄が出た番組（回）って見た方っています？
じゃあ見た方は内緒にしてください（笑）

新庄がクイズ・ミリオネアに出た時に、あのクイズ・ミリオネアって四択があるんですよね、クイズが。クイズの正解が四択A B C Dがあつて、問題があつ時に、A～Dのうち四択から選ぶんですよ。たしか15問あるんですよね。15問全問正解すると1000万円がもらえるんですよね。

僕は尊敬している『聖者』っていうのがいて、イエス・キリストとお釈迦様と新庄なんですよ、新庄（笑）。三大聖者の一人だつて言っていて、新庄の言動はもうずっと完全にウォッチしているんですけど、見逃さずにウォッチしているんですけど、新庄はクイズ・ミリオネアに出た時に、新庄はクイズが出るたびに下を向くんですよ。

みのもんたさんが途中からちょっと不思議になってきて、新庄は何をしているのか？つて聞いたら、新庄はなんと鉛筆を削ってきて、A B C Dつてやってそれをコロコロ～てやって、サイコロの目で答えていたんですよ。

新庄は僕の中では三大聖者ですけど、お頭（おつむ）は弱いんですよね（笑）。知識は弱いんですよ。だからハナから諦めていたんですよ、クイズは。クイズは諦めて、もうサイコロにかけようと思ってやっていたんですよね。

それで新庄は、クイズ・ミリオネアは15問かな？ 15問あるわけですけど、四択なんですよ。1問目・・・正解。4分の1ですよ。で、2問目・・・正解。3問目・・・正解。4問目・・・正解。9問目・・・正解。なんと全問正解したんですよ。

サイコロで4分の1の確率を15問連続で当てる人って、可能性にしたら1兆以上、1兆分の1とかじゃすまないくらいの確率ですよ。ありえない。もう神様に愛されてない限り、神様という存在がいて、神様に愛されていない限りありえない確率を一発で全問正解したんですよ！

新庄は1000万円の使い道を決めていたんですよ。子供たちを呼んで野球を見てもらいたいっていう、喜んでもらいたいっていう想いでやっていたんですよ。

さっきのアイスの時に神様がオレにパスすれば、絶対喜びが2倍になるというポイントを神様は見逃さなかったわけですよ。だから新庄が勝ち抜いた時

に、新庄が子供たちを１０００万円で喜ばせよう思っているのに、見逃すわけがないんですよ。

新庄は僕の中では三大聖者なので、新庄をウォッチしているとタクシーの乗り方からすごいですよ、新庄は。新庄のタクシーの乗り方は、新庄稼いでいるのでチップは普通に５倍くらい払うらしいですよ。５倍くらい払うらしいですけど。それはいいとして、そのチップを払う時の“一言”がものすごいわけですよ。

それは「次に乗る日本人の分もよくしてあげてね。」って言って払うんです。ということは、新庄のチップっていうのは、タクシーの運転手を喜ばせること以外にも、次に乗る日本人の喜びも生み出しているんですよ。チップを払うっていうのは普通、運転手だけ喜ぶもの。次に乗る日本人の分も出してタクシーから去っていくわけですよ。

だからホントにね、いかに喜ばれるかっていうところを僕はそこしか考えていなくて、成功法則とかいろんな成功法則があると思うんですけど、僕が考えているのは１個だけで“どうやったらこの場で喜びが増えるかな～？”ってことだけしか考えていないんです。

そうすると、さっき（の講演）収録していなかったんで、もう１回自慢させてもらおうと、僕は１２冊本を出してまして、１冊目はもう出版社さんのお陰で、ベストセラーにさせていただいて、２冊目もベストセラーにさせていただいて、３冊目もベストセラーにさせていただいて、４冊目もベストセラーにさせていただいて、５冊目もベストセラーにさせていただいて、６冊目ならなかったんですけど（笑）

７冊目またさせていただいて、８冊目もさせていただいて、９冊目ならなかったんですけど（笑）１０冊目もまたさせていただいて、１２冊ほとんどベストセラーにさせていただいたんですよ。それはホントに出版社さんのお陰でもあるし、僕自身が実力があるわけではないし、運だと思うんですね。

最初に全く無名の人が『名言セラピーシリーズ』って、４０万部くらい出ているので、累計で。最初から無名の人がそんなに売れるって、ありえないケー

スだと思うんですよね。それはもうディスカヴァーさんという出版社さんや、
いろんな人から学んだエッセンスのお陰でもあるんですけど。

もう1つこのお陰だなと思っているのは、それは僕が本を出す前なんですけど、
出版社さんのあるセミナーに出た時に、5年前なんですけど
『僕は掃除で日本を変えたいんです！』っていう人がいたんですね。

掃除でピッカピカに磨くと、会社をピッカピカに磨くと、なんか心までキレイ
になってきて、段々人間関係が変わってきて、会社も変わってくるから、掃除の
すばらしさを伝えることで、日本の会社をよくしていきたいという発表を
していた方がいて、すごく面白いなと思って。

セミナーの2次会みたいな時に、すごく面白いですねって話をして、それ本
出したらすごくいいんじゃないですか！って言ったら、

「いや本にしたいんですけど、
出版社さんのほうがなかなかOK出してくれないんですよ」

って言って、すごく面白くなって思ったから

「僕が出版社、探しますよ！」って言って、
「僕、天才コピーライターなんで・・・めちゃくちゃすごいですよ」

って言ったんですよ。

それで僕が企画書を書いて出版社さん探したら、出してくれるところが見つ
かったんですよ。見つかった時には僕もその時に本をいつか出したいな～って思
っていて、すごくいいな～って思ってて、羨ましいな～って思って。でもやっ
ぱり目の前の人がすごく面白い企画を持っていて、この人って応援してあげた
いなと思ってたんで探したんですよ。

そしたら、その本がなんと累計で200万部売れたんですよ。その本自体は
100万部くらい売れたのかな？“そうじカ”の舛田さんという方の本なんで
すけど。

大ベストセラーになって、それは舩田さんと当時一緒にやられていた方とたまたま出会ったので応援させてもらったわけで、それから1年後くらい経った時に僕の初めての本が出ることになって、いきなりすごく売れたんですよね。

それでなんでいきなり無名の人の本が売れるのかな～？ って思った時に、オレ、舩田さんたちのグループから運をもらったんだなと思ったんですよね。僕が出来ることで舩田さんたちの応援をただけだったんですけど、僕はそこで運を蓄えることが出来たんですよね。それでその運をもらったからこそ、自分がやる時にすごく運をもらったんだなって感じたんですよね。

だから誰かを助けるというのは、心から助けるというのは、心から助けると“そこに喜びが生まれる”。だからその人がすごく喜んでくれたんで、舩田さんたちもすごく喜んでくれたんで、その喜びを全部もらったんだな～って、すごく思ったんですよね。

“どうやったら喜びが増えるかな～？” って、僕は基本的にそこしか考えてないんですよね。

それは松下幸之助さんも言っていて、商売とは何か？ っていう商売の定義をしているんですよね。商売とは売上を増やすこととか、商売とは利益を増やすこととか、商売とは客さんを増やすこととか、色々定義はあると思うんですけど。

松下幸之助さんの商売に対する定義とは、『商売とはいかに感動を創り出す？』ということである。商売とは『感動を与えること』っていう定義なんですね。つまり松下幸之助さんにとって商売とは、いかに喜びを生み出すかっていうことだけなんですよ。

普通夢を持って、その夢を持ってその目的を持って具体的なことをやっていくことは、それはステキなことだと思うんですけど。だけど、喜びをいかに生み出すかっていうことを原点に置いていると流れってこうなるんですよ。

喜びを生み出しているのは、僕は出す本、出す本がベストセラーになったり、年間いま、ファンメールを5000通くらいいただくんですけど、そんなことって思ってもいないことですよ。

思ってもいないようなことが積み重なっちゃったんですけど、それはいかに

喜ばれるか、その都度意識して、そこで自分が出来ることをやっていった結果であって、それによって思ってもみないようなところに連れて行ってってもらっているんですよね。

だから“いかに喜びを生み出そうか？”っていうところをそこが今、それだけ考えていればいいんじゃないかな？っていうのが、僕の1つの結論なんですよ。

最初にこの打ち合わせで、「ひすいさんにとって幸せの定義ってなんです？」ってことについて語ってくださいってお題をいただいていたんですよ。

僕は幸せの定義って、最近うちに母ちゃんが新潟から来ていて、うちに泊まっていたんですけど「あんた、子供のころに布団のシーツにマジックで・・・」カタカナでコウフク（幸福）って書いていたらしんですよ。

「書いていたからこんなモン出したんだ～」って言われて、僕全然そんなこと知らなかったのだから「えー！？オレ小学校の時から、幸福って書いていたのー？」ってびっくりしたんですけど、覚えていないんですけど小学校の時から幸福っていうのがテーマだったみたいなんですけどね。

全然覚えてなくて、考えた覚えもなくて記憶もないんですけど、なぜか布団にマジックでコウフク（幸福）って、カタカナで書いていたらしんですよ。

そんなことがあってか、なぜかまあ幸せについて12冊、11冊本を書かせてもらって、その上でひすいさんにとって幸せの定義はなんですか？っていうお題をいただいていたんですよ。

僕は幸せの定義は“どうでもいいもの”っていう言葉を今日訴えようかなと思っていたんですよ。幸せとはどうでもいいもの・・・。

それだけ言うとすごく誤解がある言葉なんですけども、ちょっと説明させてもらおうと、「イントゥ・ザ・ワイルド」っていう映画を僕観まして、その映画がめちゃくちゃ良かったんですよ。

ショーン・ペンっていう元マドンナの旦那さんが監督をした映画で、実話は

アメリカで『荒野へ』っていう小説があって、小説っていうか実話が映画になったんですけど、その実話をショーン・ペンっていう元マドンナの旦那さんが読んだ時に、めちゃくちゃ感動してこれを映画化したいって言ったんだけど、断られるんですね。

実話なので、色々関係者もいるし断られて、でもショーン・ペンはこの話を映画化するんだったら、オレは何十年でも待つって言って本当に10年待ったんですね。10年待ってその映画を作らせてもらって、その映画はちょっと前に公開になったんですね。

その映画っていうのは、1人の大学生の話で、両親がめちゃくちゃ厳しいんですね。勉強しろとか、すっごいまじめで堅苦しい家庭環境で育って、オレは自由に生きるって決めて、彼は大学を卒業と同時に、親が自分のためにくれたお金を全部ある財団かどこかに寄付して、カードもバリって折って、無一文になってオレはもうお金とかじゃなくて、全部お金は寄付してここから全くゼロの状態から自由に生きる、今まで規制であれをするな、これをするなって言われてもうこりごりだと。

完全に自由に生きるって言って、ヒッチハイクとかして、色々その都度現地でアルバイトとかしながら、旅をしたんですね。ずっともう徹底的に自由に生きるっていうテーマで生きるんですね。

それで最後、アラスカに行くんですよ。アラスカに行った時に、アラスカで誰もいないようなアラスカの北の奥地に行って、古いバスがあったんですね。バスがあって、そこで生活し始めるんですよ。古いボロボロになっているバスで。

そこで寝泊りしていて、ある時に毒草を食べちゃうんですよ。毒の草。動悸がしてきて、めまいもしてきて、何だろうっていうので、あれさっき食ったやつがまずかったんじゃないかって。毒草の本で調べたらあったんですよ。それでこの毒草は“死の可能性が極めて高い”って書いてあるんですよ。だからこれだけは食べちゃダメっていう。

映画の中で、めちゃくちゃリアルなんですけど、「ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッ、・・・」って主人公の鼓動がなるんですね。それがその映画の中でめちゃめちゃリアルに描かれているんですけど、

「ドクッ、ドクッ、ドクッ、ドクッドクッ・・・」ってなってって、最後心臓が止まるんですね。

彼は死ぬんですけど。

死んだ時に、映画の中ではバスで仰向けになって死ぬんですけど、窓からすごくきれいな青空が見えているんですけど、その空を見ながら死んでいくんですね。これ実話なんですけど。

彼のそのバスが最終的に発見されるんで、彼が死んだことがわかるんですけど、その時彼の日記が出てくるんですね。彼は日記を書いている、その日記の中で彼は幸せとは何かって書いているんですね。

“幸せ、幸福とは分かち合うことだった”って書いてあるんですね。

一人で徹底的に自由に生きようと思って、ガムシャラにやってきたけど、やっぱり親元に帰ってあげればよかったとか、想いが出てくるんですね。自分は完全に自由に生きてきたけど、分かち合うことをしてこなかったってことに気づいて、本当の幸福とは分かち合うことだったって気づくんですね。

それを見た時に、本当の幸せって
“分かち合うこと” だなんて思うんですね。

人間っていうのは、漢字で「人の間（ひとのあいだ）」って書くんですよ。間っていうのは、人と人のつながりってことなんですよ。人と人の間に生まれるものこそ、ここにやっぱり幸せがあるのかな。だからこそ、この喜びをいかに増やすかっていうことが人間の一番のテーマになると思うんですよ。

でも、それと同時に僕が思ったのは、その主人公って幸福とは分かち合うことだったって気づいて、その時点で死んじゃうんですけど、僕はその主人公って幸せだったんじゃないかなって思うんですね。

ホントに、徹底的にやり抜いた自分が徹底的に生ききって、最後に幸福とは分かち合うことだったっていうことに気づいて死んでいくんですよ。それって、それが幸せなんじゃないかなって思うんですね。そういう生き方も。

徹底的に何かに挑戦してやり続けた結果、幸福とは分かち合うことだったって気づくこと時点で、すごくそれもステキな人生だったんじゃないかなって思うんですよね。

この前僕、京都に旅行に行って来て、京都で寺田屋という旅館があって、坂本竜馬がいた旅館があって、今も営業しているんですよ。だから竜馬が泊まった部屋とか、そのまんま泊まれるんですよ。そこにずっと泊まってて・・・。

そこで泊まってきて竜馬を感じて、贅沢な旅だったんですけど、坂本竜馬っていわゆる日本を変えた男って言われていますが、その旅館に1階にお風呂があるんですよ。

文献が残ってて、実話なんですけど、薩長同盟が薩摩と長州を和解させたので坂本竜馬は有名なんですけど、この辺の話はちょっと省きますけど。和解させた翌日に寺田屋に帰ってきて、寺田屋には竜馬の彼女がいるわけですよ。働いているんですよ。おりょうさんっていう娘が。働いているんですよ、すごくきれいな娘が。

帰ってきて、おりょうさんはお風呂に入っているんですよ。お風呂に入っている時に、ぱっと見たら竜馬は当時日本を変える男ですから、幕府に命狙われるんですよ。

当時は脱藩って言って、自分が例えば新潟県出身だったら新潟県から一步出ると、下手したら死ぬんですよ。200年くらい前まで日本はそういう時代だったんですよ。そんな、一步出たら自由って言葉がない時代に、日本を自由な国にしようと思って命懸けたのが坂本竜馬なんですよね。

今は、僕の奥さん埼玉の人なんですけど僕は新潟なので、新潟の人と埼玉の人が出会って手をつなぐというのは、ありえない世界だったんですよ。そのころ、坂本竜馬が命を懸けてくれたから、今は他県の子とチューできる国になったんですよ。ホントそうなんですよね。竜馬が命懸けてくれたお陰で他県の子と、手もつなげるしチューもできるんですよ。

その旅館に泊まった時に2階は竜馬の部屋なんですけど、1階はお風呂があるんですよ。そこに階段があって、当時そのままの造りなんですけど、夜中の

2時におりょうさんがお風呂に入っていたらしいんですね。

それで竜馬はちょうど大仕事をやり遂げて帰ってきていて、ぱっと見たら幕府方が竜馬を殺そうという人たちが100人近くいたんですよ。まあ、100人見えたわけではないんですけど、最初から100人くらいいたんですけど、おりょうさんは2階へ駆け上がって行って、裸で駆け上がっていくんですよ。

竜馬に「もう囲まれてる！」っていうんですけど、その時に竜馬は何て言ったかっていうと、おりょうさんに

「前くらい隠したほうがいいんじゃない？」（爆）

これホントなんですよ（笑）

それでおりょうさんがお風呂に入っているってことは、まさにこれからエッチするって時じゃないですか。竜馬は日本を変えるために命狙われているんで、ろくろくゆっくリエッチも出来ないんですよ。

僕ら未来の日本人が、他県の子と手をつなげる国にするために竜馬は、おりょうさんとゆっくリチューも出来ない状態なんですよ。常に命狙われているんですよ。今からエッチするって時に命狙われているって、幸せなのか？ って言ったら、絶対幸せじゃないと思うんですよ。命狙われているんで、普通に歩けないんですよ、外。めちゃくちゃ幸せじゃないですよ？

最終的に旅館を脱出して、奇跡的に竜馬は助かるんですけどね。その時は助かるんですけど。2階から飛び降りて、走って行って隣の家を突き破っていくんですよ。それでその突き破った時に、また凄まじい文献が残っててですね。

隣の家突き破って行った時に、竜馬は命狙われているわけじゃないですか。100名くらいに囲まれているわけですよ。真剣勝負じゃないですか。そんな時竜馬はなんて言ったかっていうと、隣の家突き破って行った時に

「こんにちは」って挨拶したんですよ（爆）

「こんにちは」という言葉じゃないんですけど、挨拶してるっていうのが残ってるんですよ。すごいキュートじゃないですか、竜馬。

まあ、それは関係ないですけど、全然竜馬の生き方って全く幸せとは言えないと思うんですよね。そんな人生僕はイヤですよ。彼女とゆっくり手をつなげなくて、毎日外も歩けなくて、命も狙われるって、そんな人生全然幸せじゃないと思うし、でも竜馬ってやっぱりスーパースターじゃないですか。だから幸せっていうのは、さっきのバスで死んでいった人も、ホントに徹底的に自分が自由に生きようとやり抜いたんですよね。

竜馬もホントに自由っていう言葉がない時代に、この日本に少しでも自由を持ってこようと思って、やり抜いたんですよね。最終的に33歳で殺されちゃうんですけど、やり抜いたんですよね。だから幸せっていうのは、一人ひとりがすごく深いし、あの竜馬の人生は全く幸せには思えなかったけど、でもかっこいいですよね。

でも思い返してみると、僕は今も顔は赤くなりますけど、大学生の時にずっと赤面症だったので、まずは目と目をあんまり合わせられなかったんですね、人と。すごく悩んでいて、当然彼女も出来ませんしすごく寂しくて・・・。
それでどうすればもうちょっと楽しく生きられるようになるのかな～って思っていて、ずっと模索していたんですね。

僕はあまりにも寂しかったので、本をたくさん読んだし、いろんなところに行ったし、大学の時に今思うとあまりにも寂しくて、一度サークルに入ったんですね。野球のサークルに入ったんですけど、みんなのあまりに明るい人間関係に付いていけなくて、3日で辞めたんですね。

それで、サークルも入らないと大学って物凄くヒマなんですよね。
ヒマだから、あまりにもヒマで寂しくてある時、山梨の湖にちょっと旅行行って、湖を見ながらあまりにも寂しくて泣いちゃったことがあったんですよ。

でも今思い起こすと、あの体験って物凄く自分にとってはダイジェストシーンなんですよね。自分の中では、今の人生で物凄くあの時間って大事だなんて思っていて、今本を書く仕事をしていますけど、さっき話したコンサートの警備のバイトしている時も、あのコンサートの体験は体験で、物凄く僕にとっては大事な体験だったんですよ。

それで、体験ってよく考えてみると、いい思い出ってないんですよね。
あらゆる体験にいい悪いってことがないってことがわかって、うちに今小学校の子供がいるんで、小学校の授業参観行った時に思ったんですけど、よく人間って成長したいってすごく思うじゃないですか。成長したいって思うけど、小学校1年から小学校6年までで、小学校6年がエライかっていったら、そうじゃないじゃないですか。

小学校1年と6年って、どれが一番エライって言われたら、6年生が一番成長しているけど、1年は1年で良さがあるし、2年は2年の良さがあるし、3年は3年の良さがあるし、やっぱり人生の中であらゆる体験をしているのに良い悪いもない。

全部がその時しかない貴重な体験なんですよ。
だからそう思った時に、貧乏だったら貧乏でしか味わえない体験をしている、お金持ちになったらお金持ちでしか味わえない体験をしているし。あらゆる体験に良い悪いはないって気づくと、だから不幸の時っていうのは人は最高に魂が抜けている状態なんですよ。

僕は人生2つの時間しかないと思っていて、楽しい時っていうのはうれしいし、不幸の時っていうのは魂が物凄く学んで成長しているし、人生はうれしい学んでいるか、どっちかだと思うんですよ。

だから何か辛い時とか、色々あると思うんですけどそういう時も魂は学んでいるし、あらゆる体験にあらゆる瞬間に良い悪いはないから、今日と同じ日はないから、二度とないし、ホントに振り返ってみた時に、毎日がやっぱりオンリーワンの一日なので、そうなってくるとなんかこうしなきゃっていう執着が外れてくるんですよ。

毎日がどんな体験でも貧乏していても、貧乏しか味わえない一日を過ごしているわけだし、大ピンチの時はすごく学んでいるわけだし、うれしい時はもう喜んでそれでいいし・・・ってなってくると、毎日の中であーしんどい、あーこうしなきゃって、あれも出来なかったとかってことももちろんあるんだけど、あんまりそこにゴールに対して執着しなくなってくるんですね。

それで、ゴールに対して執着しなくなってくると、何が起きるかっていうと、じつは奇跡が起きるんですね。

カール・ルイスにコーチがいて、カール・ルイスって、スタートすると前半めちゃうちゃ遅いんですよ。で、あることをした瞬間にターボエンジンがかかって、必ず1位になるんですよ。

普通、陸上選手ってオリンピックって4年に一度なので、全盛期って言ったら4年位だと思うんですよ。2大会オリンピックで、しかも連続で活躍できるって人って、めちゃうちゃ少ないんですよ。というのも8年なんで。でもカール・ルイスって16年現役を続けたんですね。4回オリンピックで活躍していますから。

それでコーチがカール・ルイスが引退した時に、カール・ルイスがなぜあれだけ速く走れたかっていうのをアメリカのテレビで秘密をしゃべったらしいんですね。

それはこれちょっと説明するの、ちょっと恥ずかしいですけど、この音声聴いてる人には味わえない面白さなんですけど。今からカール・ルイスが何をやったかを僕実演しますので、それはちょっと音声には入らないんですけど……。

(実演中)

走るじゃないですか、こうやって。前半はカール・ルイスが遅いんで、後半あるところからターボエンジンがかかるんですけど、その瞬間にカール・ルイスは何をするかっていうと……

(会場内爆笑)

これ、めっちゃ恥ずかしいんですけど、カール・ルイスは笑うんですね。笑ってるように見えた？(笑)

(会場内爆笑)

カール・ルイスは笑うんですね。“笑え”って指示されているんですね。コーチに“笑え”って指示されているんですね。笑ったらどうなるかっていうと、なんで笑うと速くなるかっていうと、力が抜けるからなんですよ。

新体道っていう武道をやっている方で、青木先生っていうものすごく大家なんですけど、僕は新体道を大学でずっと習ってまして、ずっと教わったのがいかに力を抜くかっていうこと、そこだけなんです。

いかに力を抜くかって、力を抜いた時に最高のツキが出るので、いかに力を抜くかっていうトレーニングをずっとするんです。

力が抜けきった時に、最高のツキが出るっていうんで、いかに力を抜くかっていう練習をして、だから余計そのカール・ルイスのコーチの話もあるんですけど、カール・ルイスは力を抜かせるために笑わせたんです。

だから見ると面白いんですけど・・・（笑）　笑うとターボエンジンがかかるんですよ。それでなんで笑うといいかっていうと、力が抜けるんですよ。

さっき言っていたあの人生は不幸の根拠がなくて、全部不幸から学んでいるし、幸せの時は楽しいし、言ってみると不幸も幸福もないんですよ。全部が最高の体験なわけなんです。

そう思った時に執着が抜けるとどうなるかっていうと、肩の力がふっと抜けるんですよ。そうすると肩の力が抜けると奇跡が起きるんですよ。

この前沖縄に呼んでいただいて、講演会行ってきたんですけど、沖縄って超能力者いっぱいいるんですよ。超能力者が。ユタって言うんだっけ？　やっぱり不思議なサイキックな人たちがすごく沖縄って生まれやすい土地柄なんですよ。

沖縄で最終兵器って呼ばれている超能力者の方がいて、聴きに来てくれたんですよ、僕の講演。それで終わったあとに、来てくれて「ひすいさん、今日の講演最高でした！」って言ってくれたんですよ。

超能力者の最終兵器っていう人に誉められたんで、ものすごくうれしかったんですけど、その後に「どこが良かったんですか？」って聞いたんです。そうしたら、講演終わったあとにキレイに消したんですよ、黒板。キレイに消して帰ったんですよ。そうしたらその最終兵器って呼ばれている方が

「ひすいさん、講演終わったあと、黒板自分で消して帰ったじゃないですか。
最高に感動しました。」って言うんですね（笑）

そこかーい！（笑）そこかー！ガックリきちゃったんですけど。
この話は最後の話と、全然関係ない話なんですけど。

最後の話はその超能力者の方に教えてもらったんですけど、人生で大切なことは2つしかないって教わったんですよ。

人生で大切なことって5万9千個くらいありそうじゃないですか。
人生で大切なことって5万9千個くらいありそうなんですけど、その超能力者
って2つしかないって言ったんですよ。

それで1つは、今日の話ともつながってくるんですけど、66億人今地球に
人がいるんですけど、『66億人に一人ひとりみんな違うってことを知ること』。
それが人生で2つしかない大切なことの1つらしいんですよ。

なんでそれを知らなきゃならないかって言うと、人っていうのは比較するから不幸になるらしいですよ。

例えば、僕が今この瞬間に目が2つあるじゃないですか。
でも会場にいるみなさんが目が1つになっているとしたら、僕は目が2つある
ことを「なんでオレ、目が2つあるんだろう？」って、「なんでオレ目が2つあるの〜？」って、めちゃくちゃ落ち込むと思うんですよ（笑）

もし、みんながこの瞬間にチ●コの毛が黄色になったとするじゃないですか。
そしたら「なんでオレのチ●コの毛だけ黒なの？」って。絶対思うと思うんですよ。
だからホントに、そう考えると比較しているから不幸が生まれるんですよ。
でも、ひとりひとりみんな違うんですよ。

たとえば指を考えてもらえればわかると思うんですけど、親指って太くて短かいじゃないですか。「うわっ！オレだけめっちゃ短けっ！」って言って落ち込んでいたら、この状態と同じなんですよ。

でも本当は短いからこそ役に立っているんですよ。それぞれ役があるし、

本来ひとりひとり、みんな違うっていうことを知るっていうことは、そこがホントは奥が深いとわかると、人と比較しなくなるんですね。だから不幸のほうをとがめなくなるから、人生の2つのことのうち1つはそれだってことなんですね。

もう1つはこれで締めたいと思うんですけど、今日は聞いていただいてありがとうございました。これからメのラスト一瞬なので聞き逃さないでほしいんですけど、人生で大切なもののうち1つを一瞬で表現するので、ぜひ聞き逃さないでほしいんですけど、これもまたちょっと恥ずかしいんですよ。

5万人の前でやるのは恥ずかしんですけど、5万人のわりに聞いている人、5万人のわりに笑い声小さくねー？（爆）人生の2つしかない大切なことの最後の1個は、これらしいんですね。

．．．．．

（会場内爆笑）

“笑え”って。

どんな時も笑えっていうのを、その超能力者は言っていて、どんな時も笑えって。

僕1回、会社から電話かかってきて、子供がなんか肺炎かなんかで緊急入院したっていう電話がかかってきたんですよ。もう心配じゃないですか。でその時に、僕まず一番最初にやったことは．．．

あっははは！（笑）

（会場内爆笑）

不謹慎なんだけど、やっぱり部屋で笑ってから行ったんですよ。

やっぱりホントに辛い時ほど、やっぱりね笑うとちょっと気持ちが変わるんですよ。だから、本当に何かこれから辛いこととかもあると思うし、辛い時も学べるんですよ。そんな時こそ1回笑いを始めてから、これ笑って練習し

てからでないと出来ませんから、めちゃくちゃ練習してきましたから。

なんか最後は笑うってことをそれだけを覚えていて、今日どんな時でも笑うっていうのを最後にメッセージとして、お話終わらせていただきます。

ひすいこうたろうでした。